



説教要旨 「一人一人の名を呼んで」

ルカによる福音書 19章1～10節

イエス様の時代、ユダヤを支配しているローマ帝国に納める税金を同朋であるユダヤ人から徴収していたのが徴税人です。ユダヤ人たちからは、敵に魂を売った売国奴と見なされ、憎まれ、軽蔑されてもいました。イエス様がエリコの町に入られると人々はイエス様のことを一目見ようと集まってきました。ザアカイもそんな一人でした。しかし嫌われ者であった彼は群衆に阻まれて近づくことが出来ませんでした。そこでザアカイは先回りをし、いちじく桑の木に登って、イエス様がその下を通るのを待ったのです。木の下を通りがかったイエス様が、そこで立ち止まって、木の上にいるザアカイを見上げてこう言われたのです。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」(5節)。

イエス様はここで初めて会ったはずのザアカイの名前を呼ばれています。それは「ザアカイ、あなたのことを知っている。あなたのことはわかっているよ。」という呼びかけです。町中の人からそっぽを向かれ、相手にされず、孤独に生きてきたザアカイにとってはこの一言で十分でした。自分のことをわかったださる方がおられる。その方が、「今日はぜひ、あなたの家に泊まりたい」と言ってくださっている。ザアカイはイエス様を喜んで家に迎え、「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」(8節)と告げるのです。これは、“救い”をお金で買おうとしているものではありません。イエス様がザアカイの名前を呼んでくださったあの瞬間に、彼は既に救われているのです。ザアカイは、救い主に名前を呼んでいただいた喜びを、貧しい人々と分かち合いたい。そんな思いで「財産の半分を貧しい人々に施します。」と告げたのです。インマヌエル、主が共にいてくださる。その喜びに突き動かされて、ザアカイはこのように申し出たのです。

イエス様はザアカイに呼びかけたように、私たち一人一人の名前を呼んでくださっています。「あなたのことを知っているよ。あなたのことが大切だよ」と。私たちはこの喜びに生かされているのです。